

仮のレジユメ

(1) 臨床の仕事をするに当たっての、基本仮説：

- ① 人一人ひとりの内的世界の掛け替えのなさ  
≒マジョリティの文化からの自由
- ② 人の潜在的な可能性への信頼  
個人を超えた「大いなるもの」への信頼  
時々刻々新しい

(2) グループ（広くはグループ一般、狭くはBEG）に臨むに当たっても同じ  
BEG＝人間の「本性」に即した実践

- ① 個人レベル…微視的
  - (a) ・一人ひとりが本来の自分を生きることと、  
・互いに深く交わること  
その二つが促し合う…人間の潜在的可能性
  - (b) ・自己表現 [\*1] と、  
・人への関心  
いずれもが人間の潜在的可能性
  - (c) 可能性の実現は阻まれやすい  
BEGではその実現を追究できる
- ② 個人を超えたレベル…巨視的 [\*2]  
グループなるもの  
大いなるもの

(3) BEGのスタッフ [\*3]

- ① グループの「リーダー」として独特のあり方  
あくまで一人の人として居る
- ② グループの「構造」の担い手 [\*4]